

## ◆インターネット活用教育実践コンクール実行委員会賞◆

〈学校教育部門〉

## 「自立活動発想支援システムMOSS(もず)の制作」

石川県立明和養護学校(石川県)

〒921-8834 石川県石川郡野々市町中林4-70

## ■実践事例報告の概要

これまで経験や勘に頼る部分が多かった自立活動の支援について、すべての職員の知識を集積し、日々の問題解決に利用することができるシステムを構築することを目指し、校内ネットワーク、インターネットからシームレスに利用できる自立活動発想支援システムMOSS(もず)を作成した。将来的には集められた支援のためのノウハウを家庭や地域社会での支援に利用することを目指している。

## 実践のねらい

これまで経験や勘に頼る部分が多かった自立活動の支援について、すべての職員の知識を集積し、日々の問題解決に利用することができるシステムを構築することを目指し、校内ネットワーク、インターネットからシームレスに利用できる自立活動発想支援システムMOSS(もず)を作成した。

将来的には集められた支援のためのノウハウを家庭や地域社会での支援に利用することを目指している。

## 特徴・工夫・努力した点

知識をポートフォリオとして蓄積し活用するアイデアを実現するために、最初はPASCALやBASICなどのプログラム言語の利用やエクセルやアクセスなどの利用も考えたが、保守性やデータの可視性の確保の問題があり、職員全員が利用できるワープロによるHTML形式の文書とした。

これにより、簡単なメモから音声、動画を貼り付けたファイルも簡単にメニューに登録することができ自由にリンクできる。

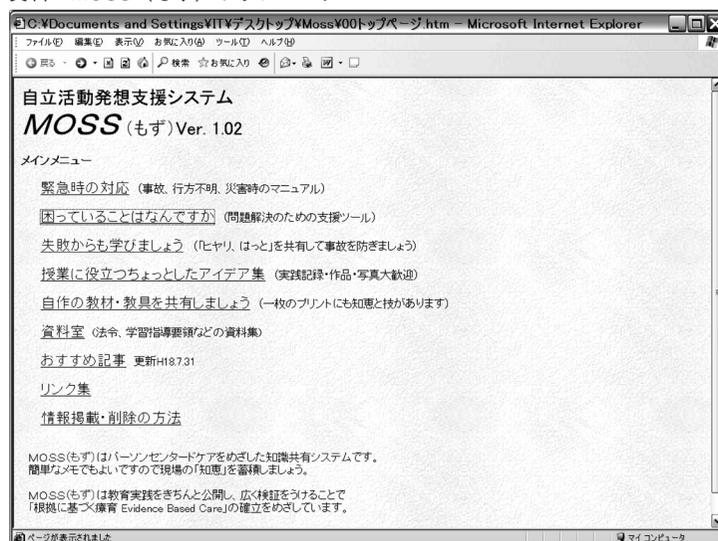
## 実践内容

養護学校のカリキュラムの中心である自立活動(障害特性に応じた支援)ではベテラン教師でさえも戸惑うことが多い。成功例や失敗事例をネットワーク上に共有し、仮説検証型の教育実践に取り組むための発想支援システム「MOSS(もず)」を制作した(資料)。

特別なソフトウェアを準備することなく、使い慣れたワープロソフトを使って実践事例や教材教具を投稿、閲覧することができる。職員全員が知恵を出しあって創造的に発展させていくことのできるシステムであり、学校長をはじめ多くの職員のアイデアにより緊急時の対応マニュアルや、ヒヤリハット事例集、教育関係法令へのリンクなどが追加されていった。

## 実践結果

学習指導案や実践記録、自作教材から事故報告に至るまで、これまで冊子として保存されたり、個人のパソコンやサーバーのフォルダーに眠っていた貴重な「知恵」を簡単に共有でき、全職員が知恵を出しあう発散技法の「場」ができあがった。



集められた「経験知」は、MOSS（もず）の心臓部である自立活動発想支援システムによってそれぞれの利用者が自分自身で最適解を見つけるための収束技法ツールとなっている。

メモ程度の簡単な文章にデジカメの画像を貼り付けるだけで立派な実践記録ができあがり、メニューへの登録もワープロで簡単におこなうことができる。成功例だけでなく、ヒヤリハット事例も大切な知恵として共有することで大きな事故を回避することができる。これは学校長のアイデアである。

システムが簡単である分パソコンやネットワークに関心もてなかった層の職員が気軽に参加できることも大きなメリットであり、興味のある話題を提供してくれている。

## 考察（今後の課題）

運用にあたって一番の課題は個人情報保護の問題である。写真はもちろん、詳細な実践事例も個々の生徒の特定につながるため細心の注意が必要である。個人認証技術の定着までとしばらく時間がかかるかもしれないが、昨今のSNS（ソーシャルネットワーキングシステム）やブログなどの発展を考えるとそう遠くない時期

に安全で確実な情報交換方法が確立されると思われる。

セキュリティの問題が解決されたならば、家庭や地域社会の知恵を集積する「場」として知的障害をもつ人の遠隔支援システムの核として活用することができる。いつでもどこにいても適切な支援を受けることができるということは、支援する側にとってもいつでもどこからでも、そして誰でもが支援をすることができるということであり、限られたリソースの有効活用と支援サービスの充実という一石二鳥の効果がある。

「場」の広がりによって記事が増えすぎた時にはアクセスカウンターを用いて擬似的なインパクトファクターにより記事の排列をおこなうことを計画している。

MOSS（もず）はメニューの追加や配列の変更もすべての利用者が簡単におこなうことができるため、使いにくければ自分たちで改善すればよい。ワープロ文書やHTML形式という可視性の高いデータ構造であるため、OSや機器が更新されても長く利用することができる。

今後は心臓部である「アイデア収束」部分の拡充（多様な発想方法の提供など）とより多くの人気が気軽にアイデアを開示できる安心できる「場」づくりを目指している。